

フッ化物洗口事業について（報告）

フッ化物洗口を集団で実施することは、子どもたちにとって簡便で、家庭の状況に左右されることなく継続が可能である。その上むし歯予防の効果が高く、地域の子ども全員がむし歯予防の恩恵を受けられることから、永久歯の健康の保持増進を図るため市立小学校において週に1回実施しています。

1. フッ化物洗口とは

フッ化物（フッ素）は、歯の質を強化して、むし歯（細菌が産生する酸によって歯の表面が溶かされる）になりにくい状態にします。具体的には、歯科医院でのフッ化物塗布、フッ化物配合歯みがき剤の利用などがあり、フッ化物洗口は、フッ化物の水溶液を用いて、ブクブクうがいを行う方法です。萌出直後の歯に比較的高いむし歯予防効果が得られることや実施方法が簡便であることから、永久歯に生え変わる学童期に全国の小学校等の施設において集団で実施している。

2. 主な経緯

厚生労働省が平成15年に示した「フッ化物洗口ガイドライン」及び千葉県が平成19年度に「フッ化物洗口マニュアル」を発出したところで、船橋歯科医師会から市への取り組みの要望もあり平成22年度から試行的に幼児・児童を対象に開始した。

しかし、3年間のモデル事業の評価として、事業の拡大が図れなかったことから、平成25年度に検討委員会を立ち上げ、歯科医師会、PTA、教育委員会、子育て支援部・健康部の関係者で船橋市に適した事業の実施方法、実施体制、推進方法を検討した結果、学校現場での負担、不安から課題となっていたフッ化物洗口液作成に係る作業を船橋薬剤師会へ委託し、市立小学校での推進を目指すこととなった。

また、「フッ化物洗口」について理解を得られるよう学校歯科医師、市の歯科衛生士が各学校に出向いて、保護者及び教職員に洗口体験を含めた説明会を実施するなど丁寧な対応につとめ、各小学校で取り組みやすい学年から開始する形で推進していった。

令和2年度、モデル事業から10年が経過するところで、子どもの貧困対策「親子しあわせ応援プロジェクト」において推進すべき事業となり、全小学校全学年での実施を本格的に目指すとして準備したが、新型コロナウイルス感染症拡大により事業は中止となった。

令和3年10月、感染対策を施して希望する学校から再開したところ、コロナ禍での児童の食生活の変化とむし歯増加の懸念から再開時に全学年で実施する学校が増え、令和7年度は55校全校での実施を達成し、そして、全学年での実施は54校となっている。

3. 全小学校での取り組みまでの経緯

モデル事業から15年の歩み

平成22年度	私立保育園2園・幼稚園2園・小学校1校（1年生）を対象に 試行的に「フッ化物洗口」を実施
平成24年度	私立保育園・幼稚園は3年間のモデル事業として終了 小学校2校で実施
平成25年度	小学校3校 12クラスで実施 「フッ化物洗口検討委員会」を設置、方向性について検討、市立 小学校全校での実施を目指すこととして報告書を市長へ提出
平成26年度	小学校10校 47クラスで実施 実施学年は学校に任せていたため、各校で異なる 学校現場の負担、不安を払拭するため、船橋薬剤師会へ洗口液の 調整に係る作業全てを委託
平成27年度	小学校14校 67クラスで実施
平成28年度	小学校22校 164クラス 全学年実施は4校
平成29年度	小学校49校 422クラス 全学年実施は12校 「フッ化物洗口検討委員会」は「歯・口腔の健康推進協議会」へ 吸収され、進捗状況の報告等を継続している
平成30年度	小学校全54校で実施を達成 525クラス 全学年実施は13校
令和元年度	小学校54校 681クラス 全学年実施は19校
令和2年度	子どもの貧困対策「親子しあわせ応援プロジェクト」において 推進すべき事業として位置付けられたことから、全小学校全学 年での実施に向けて準備していたところ、新型コロナウイルス 感染症拡大から学校が休校となり、令和2年度の事業は全面中 止となる
令和3年度	塚田南小が開校し、市立小学校は全55校となる 感染対策を施し、10月から希望する小学校で再開 小学校15校 246クラス 全学年実施は14校
令和4年度	小学校26校 440クラス 全学年実施は22校
令和5年度	小学校54校 949クラス 全学年実施は47校
令和6年度	小学校55校全校で実施を達成 989クラス 全学年実施は51校
令和7年度	小学校全55校 1,015クラス 全学年実施は54校